2020年5月21日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　佐々木　司

**意見交換のテーマ：**

今回「フェルマーの最終定理」についてのノンフィクション小説を紹介しました。

下記の観点から自由に意見交換したいと思います。

**「フェルマーの最終定理」**とは、

、「3以上の自然数nに対してxn + yn = zn を満たすような自然数ｘ、ｙ、ｚはない。」というもので、ピタゴラスの定理（上記の場合は、自然数は、2）をバージョンアップしたものであり、誰にでも説明できる式であり、誰にでもやろうと思えば参加できる。そのため、いろいろな人がこの問題に挑戦してきた。（300年以上）

**1．これまでの中で一番記憶に残っている数式があれば、教えてください。**

　（小学校、中学校、高校など）

**2．数学者の生き方についてどう思いますか？**

著者は、数学者には「美」に対する研ぎ澄まされた感覚が必要と述べている。「証明」にかける数学者の異常とも思える執念がある。(今回のアンドリューワイルズ含め、賛成、反対含め両方から自由に)

**3．今の数学教育についてどう思うか？また今後の数学教育にありかたについてどう思いますか？** (学校での数学教育、入学試験の数学など)

**4．数学と他の学問についての関連についてどう思いますか？(下記の5とも関連)**

数学への適性や能力があっても偏差値で学部を判断したり、優秀な学生は医学部へ進学したりする傾向のある現在の日本の風潮についてどう思う？このままでは、技術立国として生き残っていけないのではないだろうか？

**5.「ABC予想」のときもそうであったが「フェルマーの最終定理」が証明されると何がすごいのでしょうか？**

これらが、他の分野、物理、化学などに転用されるのであろうか？「ABC予想」が解決されたときには、「フェルマーの最終定理」の大部分が簡単に解けると聞いているが・・・

以上